

現状と課題

ニーズ調査（速報値※）

見直しの方向性（案）

自動車整備科

訓練科の概要

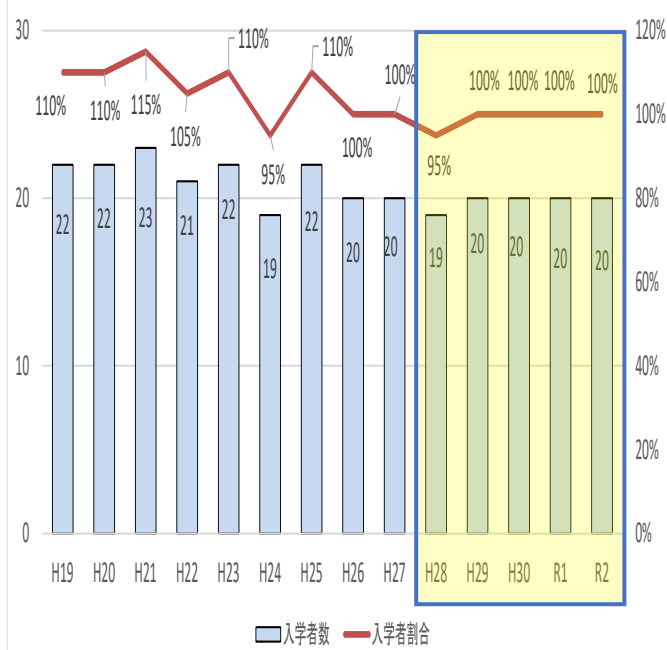
自動車整備科(2年)

- 【対象】
  - ・高卒者で30歳以下(20名×2)
- 【訓練】
  - ・エンジン組立など自動車整備
- 【訓練科目】
  - ・国準拠(自動車工学、整備、検査、法規、ハイブリッド車の整備、板金塗装など)
- 【資格】
  - ・2級自動車整備士(ガソリン・ジーゼル)など



現状と課題

○入学率が高い ※99%(直近5年)



○就職率が高い ※100%(直近5年)

<事業者(全事業所)>

- ・不足している年齢層・職種  
→ 若年層 83.2%・技能職 55.9%

[参考]

- ・全国的な傾向  
→ 自動車整備士は全国的に不足、求人ニーズは高い

<受講者(高校生)>

- ・進学先として興味がある学科  
→ 自動車整備科 13.8%(3科で真ん中)
- ・効果的な広報媒体(SNS)  
→ インスタ 47.3%、ツイッター43.1%、ユーチューブ 39.5%

<<考え方>>

- ・現状では特に課題はなく、また、国に準拠したカリキュラム編成となっているため、**基本、現行のまま継続。**

<<見直し内容>>

- 【科名】、【訓練内容】
  - ・**基本、現行のまま継続**
  - ・ただし、県内ディーラーのニーズや国の動向を踏まえ、随時見直し。  
※例えば、自動運転技術やEV化に関する講習会(業界講師による特別講義)、EVの教材車両導入
- 【広報活動】
  - ・HP、パンフレット、県内高校向け説明会、オープンキャンパス +
  - **新 SNSや動画の活用、保護者見学会 など**

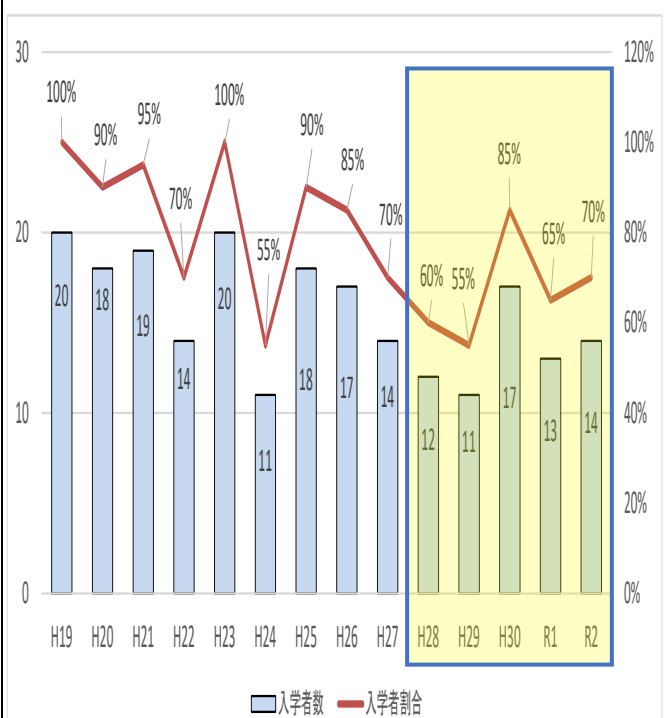
メカトロニクス科

メカトロニクス科(2年)

- 【対象】
  - ・高卒者で30歳以下(20名×2)
- 【訓練】
  - ・工作機械の操作と制御技術
- 【訓練科目】
  - ・国準拠(機械・電気工学、機械操作及び工作基本実習、メカトロニクス組立基本実習、制御プログラムなど)
- 【資格】
  - ・機械加工2級実技、第二種電気工



▲入学率は約7割 ※67%(直近5年)



○就職率が高い ※97%(直近5年)

<事業者(全事業所)>

- ・不足している年齢層・職種  
→ 若年層 83.2%・技能職 55.9%

<事業者(ものづくり系)>

- ・CAD/CAMを使う業務における人材充足度  
→ 全ての職種『不足している』

- ・採用希望年代  
→ 「作業員」若手(6割超)  
「設計」若手  
「管理責任者」中堅

- ・採用希望学歴  
→ 学歴に関係なく
- ・**技専での育成希望**  
→ 全ての職種 最も高い

<受講者(高校生)>

- ・DX関連で興味がある内容  
→ プログラミング技術 23.3%、AI技術 18.2%、ロボット・FA技術 11.5%
- ・進学先として興味がある学科  
→ メカトロニクス科 7.2% (3科で最も低い)
- ・効果的な広報媒体(SNS)  
→ インスタ 47.3%、ツイッター43.1%、ユーチューブ 39.5%

<<考え方>>

- ・国に準拠したカリキュラム編成となっているが、**DX(IoT、AI等)の導入が進む生産現場に対応できるように、訓練内容(カリキュラム)を充実。**
- ・科名変更により、イメージの刷新を図る必要。  
**※ロボットを活用した訓練の導入により魅力を高め、訓練生確保につなげる**

<<見直し内容>>

- 【科名】
  - ・**変更**  
(例えば) **機械・制御エンジニア科**
- 【訓練内容(カリキュラム)の充実】
  - ・工作機械の操作と制御技術の習得  
CAD/CAMを核としたデジタル生産システムを活用した訓練(機械部品の設計から生産までの一連の流れをコンピュータで制御する訓練)
  - **FA(=工場の自動化)に対応するための訓練環境の強化**  
**ロボットを活用した製造ライン制御(製品の自動運搬や仕分け)訓練の導入**
- 【広報活動】
  - ・HP、パンフレット、県内高校向け説明会、オープンキャンパス +
  - **新 SNSや動画の活用、保護者見学会 など**

<<留意事項>>

- ・設備投資(ハンドリングロボット、シミュレータソフトなど)

<<時期>>

- ・**速やかに**【目標】第11次職業能力開発計画期間中(R7年度まで)

※本資料記載のニーズ調査結果は速報値であり、最終報告書(令和3年度末納品予定)とはパーセンテージが異なる場合があります。  
※『不足している』は「やや不足している」及び「不足している」の回答の合計です(以下同じ)。

現状と課題

訓練科の概要

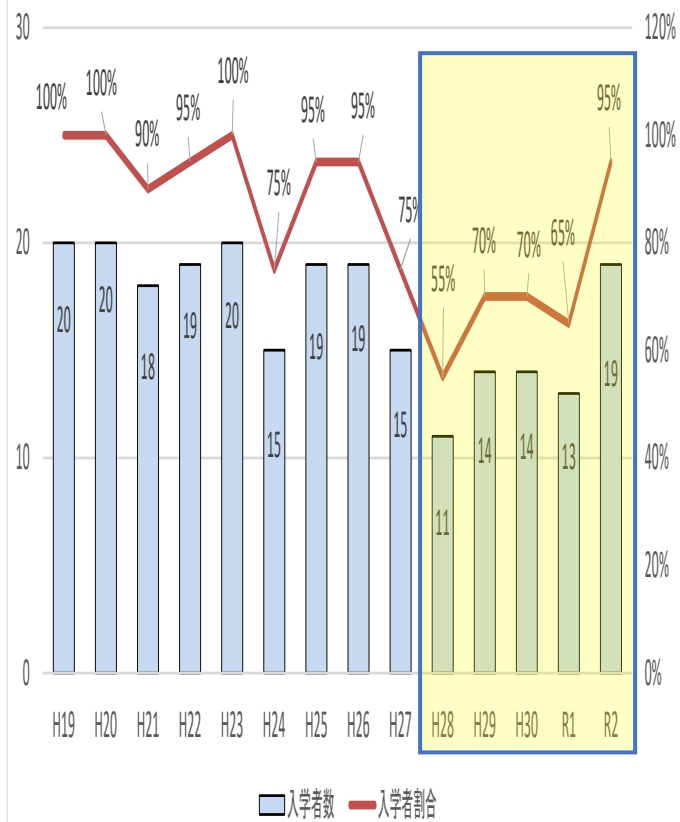
電子情報科(2年)

- 【対象】
  - ・高卒者で30歳以下(20名×2)
- 【訓練】
  - ・コンピュータのソフトウェア技術(プログラミングなど)とハードウェア技術(デジタル電子回路作成など)
- 【訓練科目】
  - ・ある程度国準拠(電子工学、電気理論、デジタル制御実習、プログラム作成実習、ネットワーク実習など)
- 【資格】
  - ・電子機器組立て3級、デジタル技術検定、情報処理技術者試験など



現状と課題

▲入学率は約7割 ※71%(直近5年)



○就職率は高い ※99%(直近5年)

ニーズ調査(速報値)

<事業者(全事業所)>

- ・不足している年齢層・職種
  - 若年層 83.2%
  - 技能職 55.9%、専門技術職 49.2%
- ・デジタル人材の充足度
  - 不足+今後不足 74.7%

<事業者(ITベンチャー系)>

- ・人材充足度
  - 全ての職種『不足している』
- ・採用希望年代
  - 「技術作業員」若手(約8割)
  - 「技術管理者等」中堅
- ・採用希望学歴
  - 大学卒(約5割)、
  - 職業能力開発校卒(約3割)
  - 学歴関係なく採用(約3割)
- ・技専での育成希望
  - 全ての職種 高い
  - 特に、技術作業員 6割超

<受講者(高校生)>

- ・DX関連で興味がある内容
  - プログラミング技術 23.3%、AI技術 18.2%、ロボット・FA技術 11.5%
- ・進学先として興味のある学科
  - 電子情報科 23.9%
  - (3科で最も高い)
- ・あれば進学を希望する学科
  - 情報処理系 17.7%
- ・効果的な広報媒体(SNS)
  - インスタ 47.3%、ツイッター 43.1%、ユーチューブ 39.5%

見直しの方向性(案)

【R3】合格したが辞退した方 8名  
他科に比べて多い

＜考え方＞

- ・ある程度柔軟なカリキュラム編成ができるため、IoT技術の活用で業務上の問題を解決できる人材を育成するため、訓練内容(カリキュラム)を充実
- ※IoTを活用した訓練の導入により魅力を高め、訓練生確保につなげる

＜見直し内容＞

- 【科名】
  - ・変更(例えば)電子情報/IoT科
- 【訓練内容(カリキュラム)の充実】
  - ① 2年次に、IoT技術を活用した実習を導入
  - ・センサー組み込みマイコンを活用したデジタル制御や回路組立実習 など
  - <イメージ> 生産現場でIoTを活用し、製品を改良・メンテするような技術習得
- 【資格】
  - ② IoT検定、IoTシステム技術検定
- 【広報活動】
  - ・HP、パンフレット、県内高校向け説明会、オープンキャンパス +
  - ③ SNSや動画の活用、保護者見学会 など

＜留意事項＞

- ・設備投資(マイコン など)

＜時期＞

- ・速やかに【目標】第11次職業能力開発計画期間中(R7年度まで)

現状と課題

ニーズ調査(速報値)

見直しの方向性(案)

金属(加工)ものづくり基礎科

環境エネルギー設備科

訓練科の概要

金属加工科(1年:企業実習付)

【対象】55歳以下の即戦力(10名)

【訓練】溶接施工、切削加工

金属ものづくり基礎科(6か月)

【主な受講者】女性、若年者(10名×2)

【訓練】溶接施工、切削加工



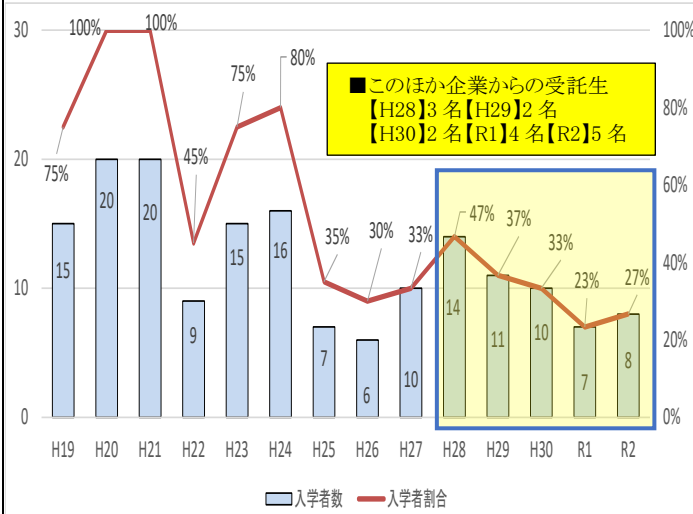
現状と課題

▲入校率は低い ※両科合計 33%(直近5年)

・加工科 32%(=16/50)、ものづくり科 36%(=36/100)

・加工科の入学者:年齢 36歳以下

○企業は、在職者の訓練として活用



○就職率は約8割 ※両科合計 80%(直近5年)

<事業者(全事業所)>

- ・不足している年齢層・職種
  - 若年層 83.2%、中堅層 60.4%
  - 技能職 55.9%
- ・役立つと思う職業訓練コース
  - 金属加工科 13.7%(2番目に高い)

<事業者(ものづくり系)>

- ・CAD/CAMを使う業務における人材充足度
  - 全ての職種『不足している』
- ・採用希望年代
  - 「作業員」若手(6割超)
  - 「設計」若手
  - 「管理責任者」中堅
- ・技専での育成希望
  - 全ての職種 最も高い
- ・機械による自動化が困難な作業のある事業所が希望する訓練コース
  - 金属加工科 約8割
  - 金属ものづくり基礎科 6割超

【参考】

- ・県内の訓練校は2施設のみ(技専、ポリテクセンター)
- ・溶接工として指導できるのは30歳代まで(事業所の声)

<受講者(求職者)>

- ・技専を知らなかった → 約5割

【参考】

- ・CADを学べるコースが県東部にない(求職者の声)

<事業者(ビルメンテナンス業種)>

- ・人材充足度
    - 「清掃員」「設備・電気設備・冷蔵機器等の保守管理ができる技術作業員」『不足している』
  - ・採用希望年代
    - 「設備・電気設備の保守点検」中堅 約4割
  - ・技専での育成希望
    - 希望する ※
    - 特に、設備保守管理約5割
- ※全職種において「希望する」が「希望しない」を上回る
- 【参考】
- ・ビル管理の人材不足(ボイラー協会要望)
  - ・第二種電気工事士、2級ボイラー技士の資格

<受講者(求職者)>

- ・あれば受けてみたいコース
  - ビルメンテナンス関係分野 15.5%
- ・適正な訓練期間 6か月程度 → 3割超
- ・技専を知らなかった → 約5割

<ポイント>若者や女性に訴求する訓練、広報

- ・3Kイメージで敬遠する求職者の間口を広げるため、作図やオペレーションを訓練するコースを新設。併せて、広報活動を強化。

金属加工科(1年)

- 【訓練】溶接施工、切削加工 + 拡 機械板金技能・CAD技能
- 【広報】新 若者、女性向け見学会・座談会、SNSや動画の活用 など

企業実習付

金属ものづくり基礎科(6か月)

- 【訓練】溶接施工、切削加工 + 拡 機械板金技能・CAD技能
- 【広報】新 若者、女性向け見学会・座談会、SNSや動画の活用 など

変更あり

<留意事項>・設備投資と外部講師の確保

- [設備]CAD用パソコン(LAN工事含む)、溶接シミュレーターの整備
- [講師]CAD講師の確保(数年間:この間に指導員のOJTを進める)

変更あり

<時期>

- ・速やかに【目標】第11次職業能力開発計画期間中(R7年度まで)

長期(1年:企業実習付)

【対象】55歳以下の即戦力(10名)

【訓練】配管、電気の保守・点検

短期(6か月)

【主な受講者】若年者(10名×2)

【訓練】配管、電気コース(前期)

配管・制御コース(後期)

※後期は中高年が多い

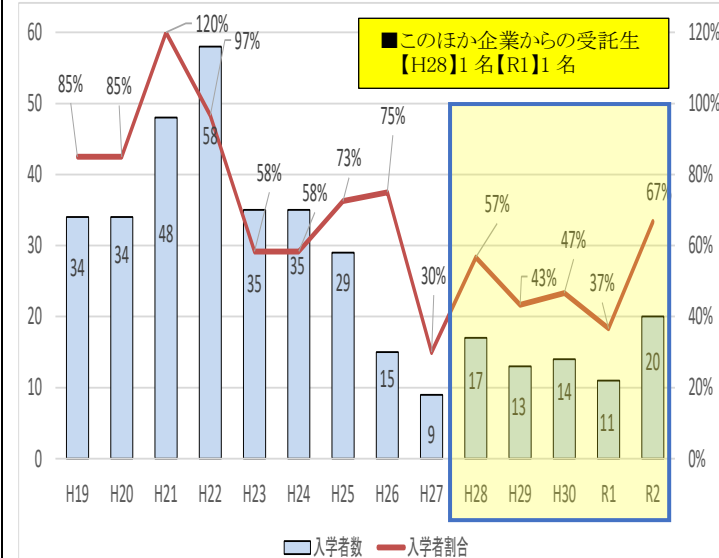


▲入校率は低い ※50%(直近5年)

・長期 38%(=19/50)

・短期 56%(=56/100) 近年低下 H30:65%、R1:70%、R2:50%

・入校者:20~40代が約6割



▲就職率は約7割 ※73%(直近5年)

・低下傾向 H30:82%、R1:69%、R2:56%

<ポイント>女性、中高年等の受講を念頭に体への負担が少ない訓練の導入

- ・学科を再編[長期(1年企業実習付)は廃止、短期は2科体制に]
- ・受講促進・就職幅を広げるため、体への負担が少ないビル管理の訓練科を新設。併せて、現行の配管・電気コースを科に変更。

<見直し内容> 短期(6か月) 2科体制

- 【科名】新 ビルメンテナンス科(仮称)
- 【訓練】ビルや施設の保守管理に必要な技能の習得(ボイラー技士訓練等)
- 【資格】2級ボイラー技士、第二種電気工事士 など
- 【広報】新 女性・中高年向け見学会・座談会、SNSや動画の活用 など

【科名】住宅設備科(仮称) <※現行の配管・電気コース>

【訓練】配管や電気など住宅設備に必要な技能の習得

<留意事項>・設備投資(電気工事士用工具 など)

<時期>

- ・速やかに【目標】第11次職業能力開発計画期間中(R7年度まで)

現状と課題

ニーズ調査(速報値)

見直しの方向性(案)

木材加工科

訓練科の概要

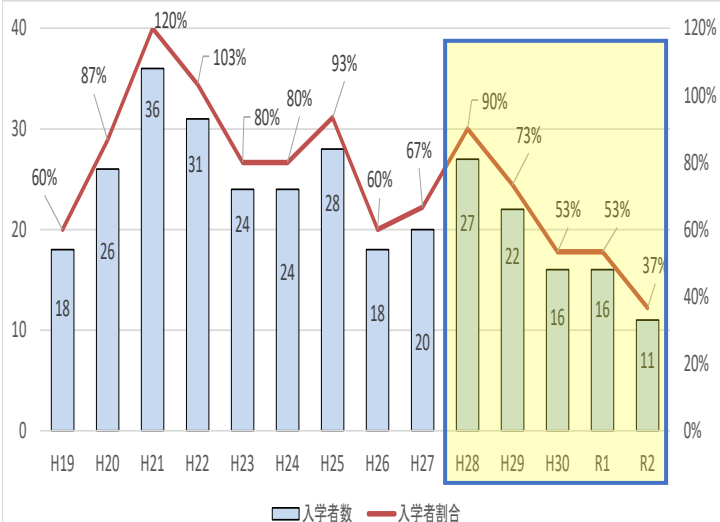
**長期(1年:企業実習付)**  
【対象】55歳以下の即戦力(10名)  
【訓練】家具、建具製作

**短期(6か月)**  
【主な受講者】中高年者(10名×2)  
【訓練】家具、建具製作



現状と課題

▲入校率は低い ※61%(直近5年)  
・長期 28%(=14/50)  
・短期 78%(=78/100) 近年低下 H30:65%、R1:70%、R2:50%  
・入校者:60代が約4割



○就職率は約8割 ※79%(直近5年)

<事業者(土木・建設系)>  
・人材充足度  
→ 全ての職種『不足している』  
作業員、主任技術者 6割超  
・採用希望年代  
→ 「作業員」若手(6割超)  
「主任技術者、設計・測量」中堅  
・技専での育成希望  
→ 作業員、主任技術者 5割超  
・DX関連(CADなどの技術)  
導入 → 66.1%  
人材充足度 → 『不足している』  
採用希望年代 → 若手  
技専での育成希望 → 48.0%

【参考】  
<受講者(求職者)>  
・富山地域に建築を学べるコースの要望(ハローワーク窓口での求職者の声)

<事業者(土木・建設系)>  
・同上(木材加工科)

<事業者(ものづくり系)>  
・CAD/CAMを使う業務における人材充足度  
→ 全ての職種『不足している』  
・採用希望年代  
→ 「作業員」若手(6割超)  
「設計」若手  
「管理責任者」中堅  
・技専での育成希望 → 全ての職種 最も高い

<事業者(全事業所)>  
・新川センターにCAD関連科を設置  
→ <全体> 『設置すべき』24.0%  
わからない50.9%  
<製造業> 『設置すべき』28.6%  
<建設業> 『設置すべき』29.6%  
※ 砺波センターもほぼ同様の割合

<受講者(求職者)>  
・あれば受けてみたいコース  
→ <全体> CAD/CAM関連 20.4%  
<製造業> CAD/CAM関連 24.9%  
<建設業> CAD/CAM関連 26.8%  
・新川センター及び砺波センターにCAD関連科が設置されたら受講する  
→ <全体> 受講してみたい23.7% わからない36.2%  
<製造業> 受講してみたい31.6% わからない32.6%  
<建設業> 受講してみたい31.7% わからない26.8%

変更あり  
◀ポイント>地域ニーズを踏まえた訓練  
・若年者・女性の受講促進、就職幅を広げるため、建築デザインを含む建設分野全般に対応できる学科に改編

★新川のエコ住宅リフォーム科の機能を移管

<長期(1年)>総合建築科(仮称)に改編  
【訓練】新 木造建築一般 + 建築CAD  
【資格】技能検定2級(建築大工、内装系)、建築CAD検定、木造建築士、2級建築士などの資格取得を目指す

企業実習付

<短期(6か月)>建築デザイン科(仮称)に改編  
【訓練】新 木造建築一般 + 建築CAD  
【資格】建築CAD検定 など

変更あり

◀留意事項>・施設・設備への投資  
【施設】専用の実習棟の整備(新川の建築設備移管含む)など  
【設備】CAD用パソコン など

◀時期>  
・速やかに【目標】第11次職業能力開発計画期間中(R7年度まで)

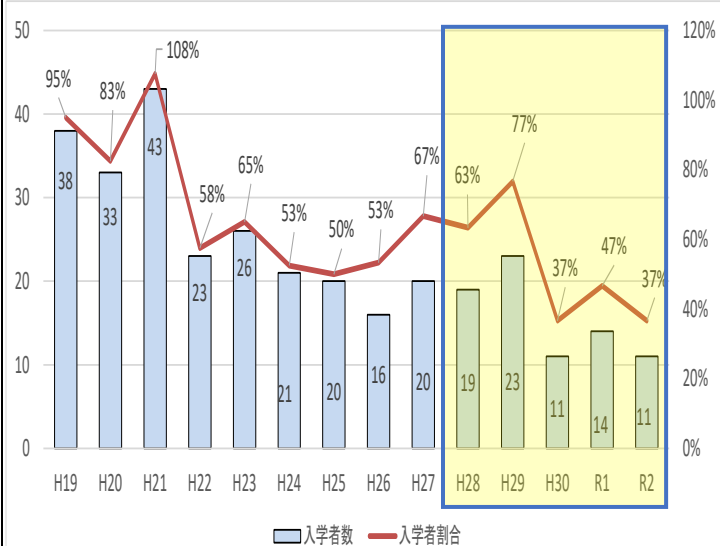
エコ住宅リフォーム科(新川センター)

**長期(1年:企業実習付)**  
【対象】55歳以下の即戦力(10名)  
【訓練】建築、CAD訓練

**短期(6か月)**  
【主な受講者】若年者・女性(10名×2)  
【訓練】建築加工、CAD訓練



▲入校率は低い ※52%(直近5年)  
・長期 22%(=11/50)  
・短期 67%(=67/100) 近年低下 H30:50%、R1:65%、R2:50%  
・入校者:30~50代が約6割(うち女性約3割)



▲就職率は7割弱 ※67%(直近5年)  
・低下傾向 H30:67%、R1:27%、R2:45%

変更あり  
◀ポイント>地域ニーズを踏まえた訓練  
・若年者・女性の受講促進、就職幅を広げるため、製造・ものづくり系分野に対応できる学科に改編

<長期(1年)>住宅系(企業実習付)の廃止、本校に機能移管(▲10名)

<短期(6か月)>CADクラフト科(仮称)に改編  
【訓練】新 3Dプリンター、3次元CAD、汎用機械操作 など  
※アルミ、プラスチック(樹脂)、木材などを加工できる技術者を養成  
【資格】3次元CAD、各種技能講習・特別教育(※) など  
※玉掛け、床上操作式クレーン運転、フォークリフト など

変更あり

変更あり

◀留意事項>・設備投資や協会等との調整  
【設備投資】本校への建築設備移管 など  
【協会等との調整】学科改編に向けた協会や本校との調整

◀時期>  
・速やかに【目標】第11次職業能力開発計画期間中(R7年度まで)

現状と課題

ニーズ調査（速報値）

見直しの方向性（案）

モノづくり系の訓練科（砺波センター）

訓練科の概要	現状と課題
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">                     特色ある訓練科(ものづくり系の訓練科)が未設置                 </div>	

<事業者(土木・建設系)>

- ・**人材充足度**  
→ 全ての職種『不足している』  
作業員、主任技術者 6割超
- ・**採用希望年代**  
→ 「作業員」若手(6割超)  
「主任技術者、設計・測量」中堅
- ・**技専での育成希望**  
→ 作業員、主任技術者 5割超
- ・**DX関連(CADなどの技術)導入** → 66.1%
- ・**人材充足度** → 『不足している』
- ・**採用希望年代** → 若手
- ・**技専での育成希望** → 48.0%

<事業者(ものづくり系)>

- ・**CAD/CAMを使う業務における人材充足度**  
→ 全ての職種『不足している』
- ・**採用希望年代**  
→ 「作業員」若手(6割超)  
「設計」若手  
「管理責任者」中堅
- ・**技専での育成希望**  
→ 全ての職種 最も高い

<事業者(全事業所)>

- ・**砺波センターにCAD関連科を設置**  
→ <全体> 『設置すべき』 23.6%  
わからない 51.2%  
<製造業> 『設置すべき』 27.7%  
<建設業> 『設置すべき』 29.2%  
※ 新川センターもほぼ同様の割合

<受講者(求職者)>

- ・**あれば受けてみたいコース**  
→ <全体> CAD/CAM関連 20.4%  
<製造業> CAD/CAM関連 24.9%  
<建設業> CAD/CAM関連 26.8%
- ・**新川センター及び砺波センターにCAD関連科が設置されたら受講する**  
→ <全体> 受講してみたい 23.7% わからない 36.2%  
<製造業> 受講してみたい 31.6% わからない 32.6%  
<建設業> 受講してみたい 31.7% わからない 26.8%

★住宅木工系の再編にあわせ、新川と同じ科を新設

<短期(6か月)> CADクラフト科(仮称)に改編

- 【訓練】**新 3Dプリンター、3次元CAD、汎用機械操作** など  
※アルミ、プラスチック(樹脂)、木材などを加工できる技術者を養成
- 【資格】**3次元CAD、各種技能講習・特別教育(※)** など  
※玉掛け、床上操作式クレーン運転、フォークリフト など

変更あり

変更あり

現状と課題

ニーズ調査(速報値)

見直しの方向性(案)

造園管理科

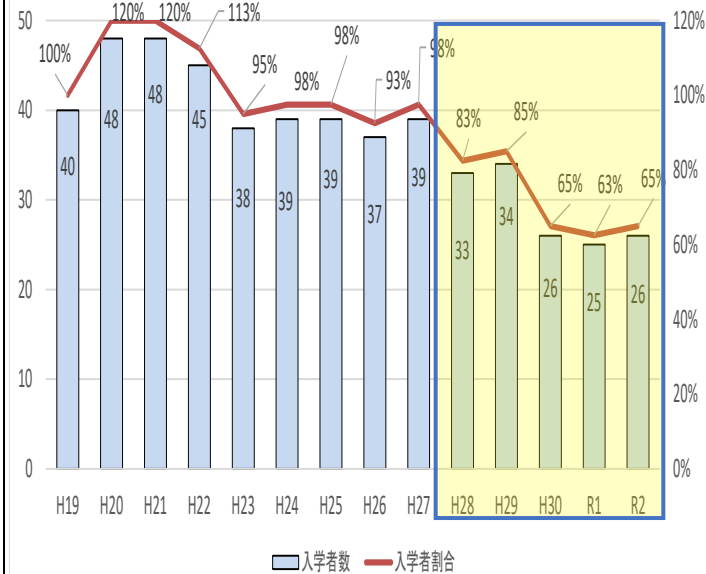
訓練科の概要

**造園管理科(6か月)**  
 【主な受講者】中高年(20名×2)  
 【訓練】樹木等の管理  
 【資格】技能検定3級造園技能士



現状と課題

▲入校者が低下傾向 ※72%(直近5年)



○就職率は横ばい ※72%(直近5年)

<事業者(土木・建設系)>

・人材充足度

→ 全ての職種『不足している』

「作業員、主任技術者」

『不足している』6割超

「造園管理・施工技術者」

『足りている』4.9%

『不足している』12.7%

※造園関係は、関連企業が限定されるため無回答が約5割

・採用希望年代

→「作業員」若手(6割超)

「主任技術者、設計・測量」中堅

「造園管理・施工技術者」若手

・技専での育成希望

→「作業員、主任技術者」5割超

「造園管理・施工技術者」

希望する 11.9%

希望しない 5.7%

わからない 24.7%

[参考(事業所の声)]

・造園土木工事に関する技能

(エクステリア等)

・小型車両系建設機械の操作資格

(建設IoT対応)

[参考]

<受講者(求職者)>

・小型車両系建設機械の操作資格

(求職者の声)

<<考え方>>地域ニーズを踏まえた訓練

・女性や若年者が造園・土木業へ就職する機会を確保する(就職幅を広げる)ため、建設IoT(建設機械の情報化)を見据えた訓練を充実する

<<見直し内容>>

【科名】造園土木施工科(仮称)に変更

【訓練】樹木等の管理 +

⑧ 造園土木工事で必要な建設機械(バックホウ)及び測量機器(トータルステーション)を活用した訓練

【資格】技能検定3級(造園)、各種技能講習・特別教育(※)

※ ⑨ 小型車両系建設機械、移動式クレーン など

変更あり

<<留意事項>>

[実習場]建設機械操作ができる実習場の確保

[設備]バックホウ、測量機器

<<時期>>

・速やかに【目標】第11次職業能力開発計画期間中(R7年度まで)

※『足りている』は「やや足りている」及び「足りている」の回答の合計です(以下同じ)。

現状と課題

ニーズ調査(速報値)

見直しの方向性(案)

訓練科の概要

**OA事務科(4か月)**  
【主な受講者】女性(20名×3)

【訓練】

①販売事務コース(20名)

販売、簿記会計、パソコン操作実務、社会保険、接客マナー

②経理実践コース(20名)

会計事務(実践的)、パソコン操作実務、社会保険、接客マナー

③生産事務コース(20名)

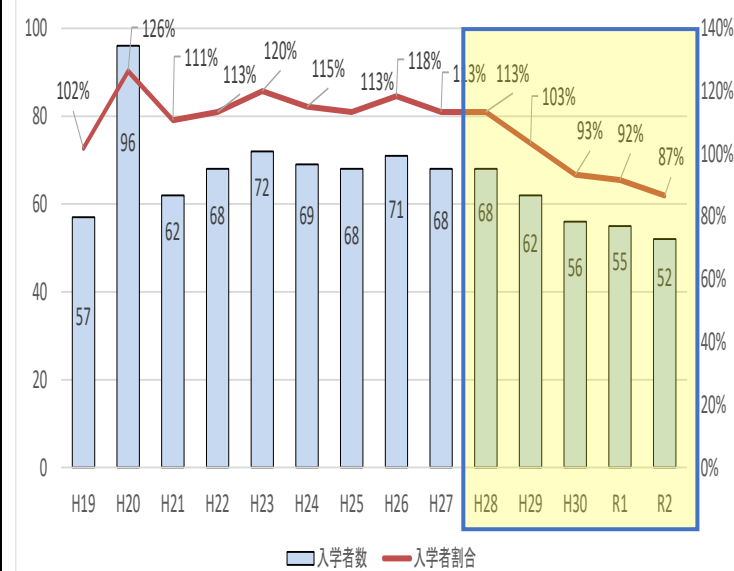
簿記会計(原価計算含む)、パソコン操作実務、社会保険接客マナー

【資格】簿記2級、ワード・エクセル2級、販売士3級、秘書2級など



現状と課題

○入校率が高い ※98%(直近5年)  
・入校者:女性が約9割



○就職率は7割超 ※73%(直近5年)  
・低下傾向 H30:79%、R1:75%、R2:67%

<事業者(全事業所)>

- ・デジタル人材の充足度  
→ 不足+今後不足 74.7%
- ・デジタル技術活用による広報、求人活動、ネット販売  
→ 取組済+今後取組 45.1%
- ・上記業務に取組む中心人材の充足度  
→ 不足+今後不足 66.2%

<受講者(求職者)>

- ・希望する職種  
→ 「一般事務」38.2%(最も高い)
- ・受講したい訓練(上位3つ)  
→ 「パソコン事務科」17.8%砺波  
「OA事務科」16.8%本校  
「ビジネス事務科」16.2%新川
- ・あれば受けてみたいコース  
→ DX・IT関連技術の作り方(プログラミングなど)31.3%  
デジタル技術活用による広報  
求人活動、ネット販売 28.4%  
DX・IT関連技術の使い方(ソフトウェアアプリ)24.9%

<考え方>

- ・本校、両センターでバラバラな科名を統一併せて、コース制を廃止(各コースの内容を共通化)
- ・高度情報化の進む社会で基礎的なIT技術を活用できるよう、カリキュラムを充実(ITに関する総合的な知識の習得訓練を追加)

<見直し内容>

【科名】**ビジネス事務科(仮称)**(訓練期間:6か月に延長)に変更  
【訓練】簿記会計、会計事務、パソコン操作、社会保険、接客マナー

+  
⑧ **SNS・HPの活用、ソフトウェア・ネットワークの基礎、情報セキュリティ等**  
【資格】簿記、ワード・エクセル等の資格に加え、ITパスポートなどIT関連の資格取得を目指す

<留意事項>

- ・外部講師の確保

<時期>

- ・速やかに【目標】第11次職業能力開発計画期間中(R7年度まで)

変更あり

変更あり

OA事務科(本校)

**ビジネス実務科(4か月)**

【主な受講者】女性(20名×2、10名×1)

【訓練】

①パソコン・経理コース(20名×2)

経理実務、パソコン操作実務、社会保険、接客マナー

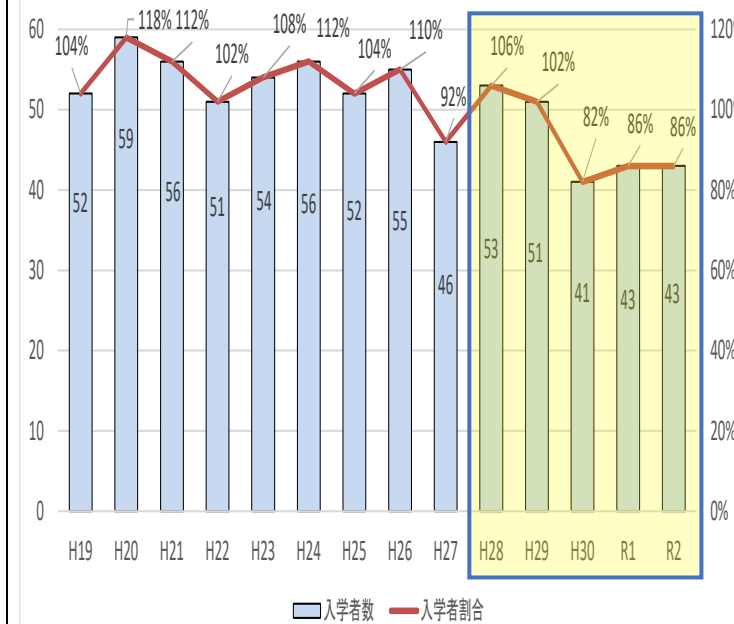
②会計実務コース(10名)

会計事務、パソコン操作実務、社会保険、接客マナー

【資格】簿記2級、ワード・エクセル2級、秘書2級など



○入校者は多い ※92%(直近5年)  
・入校者:女性が約9割



○就職率は7割超 ※74%(直近5年)  
・低下傾向 H30:85%、R1:65%、R2:62%

同上

同上

ビジネス実務科(新川センター)

現状と課題

ニーズ調査（速報値）

見直しの方向性（案）

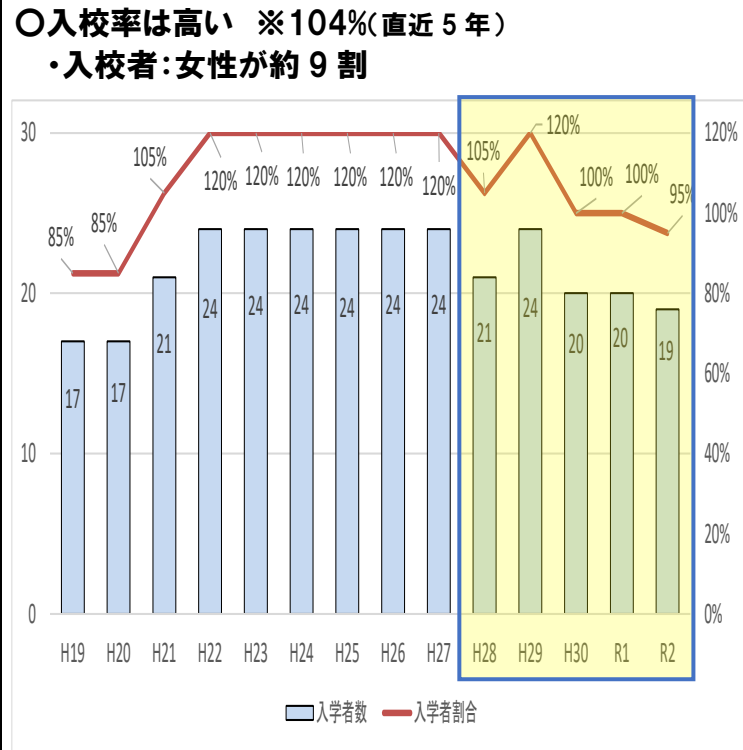
パソコン事務科（砺波センター）

訓練科の概要

**パソコン事務科(4か月)**  
 【主な受講者】女性(10名×2)  
 【訓練】  
 パソコン操作実務、社会保険、接客マナー  
 【資格】ワード・エクセル 2 級、秘書 2 級など



現状と課題



○就職率が高い ※94%(直近5年)

同上

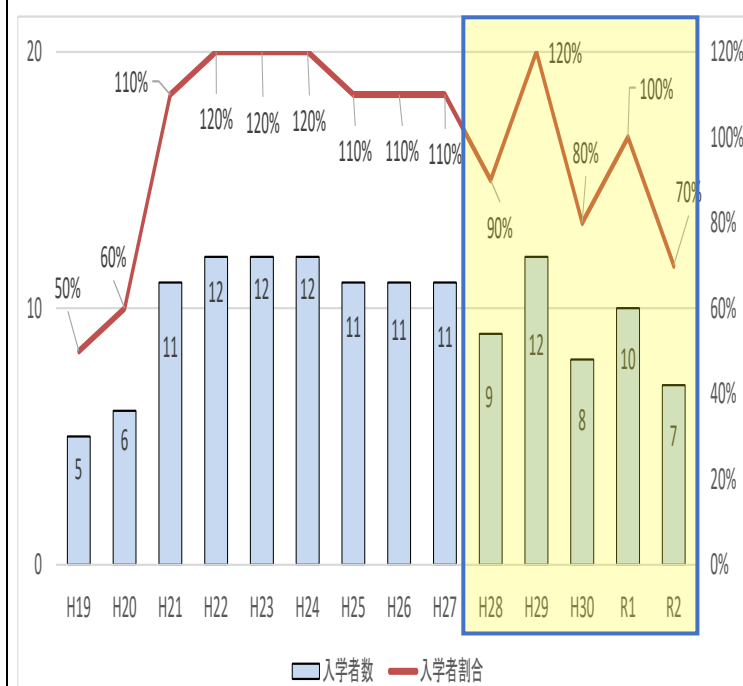
同上

簿記・会計科（砺波センター）

**簿記・会計科(4か月)**  
 【主な受講者】女性(10名)  
 【訓練】  
 簿記・会計、社会保険、接客マナー  
 【資格】簿記 2 級、秘書 2 級など



○入校率が高い ※92%(直近5年)  
 ・入校者:女性が約9割



○就職率が高い ※85%(直近5年)

同上

同上



現状と課題

ニーズ調査(速報値)

見直しの方向性(案)

介護サービス科(新川センター)

訓練科の概要

介護サービス科(2か月)

【主な受講者】女性(20名×2)

【訓練】在宅・施設介護に必要な技能や基本的な知識の習得(初任者研修)

【体制】外部講師対応(指導員未配置)

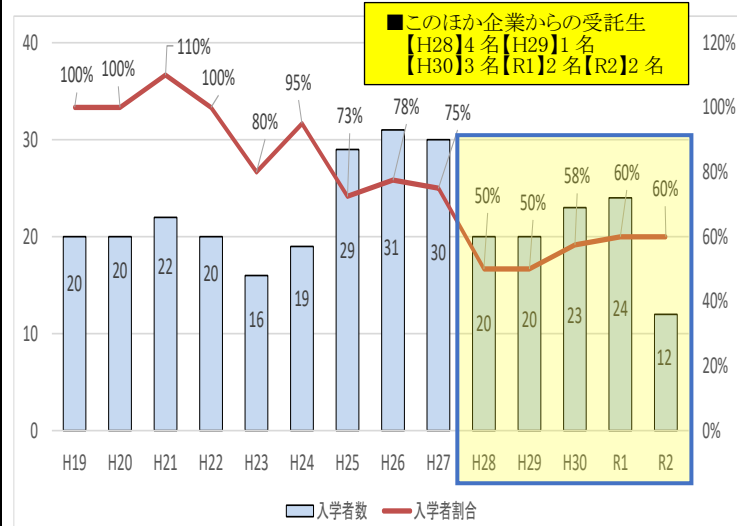


現状と課題

▲入校率は低い ※55%(直近5年)

- ・横ばいで推移
- ・入校者:女性が約8割

○企業からは在職者訓練として活用されている



○就職率は約8割 ※78%(直近5年)

<事業者(介護・福祉系)>

- ・人材充足度  
→ 全ての職種『不足している』  
介護員 4割超
- ・採用希望年代  
→ 「介護員」若手  
「主任介護員等」中堅
- ・技専での育成希望  
→ 介護員、主任介護員 4割超
- ・DX関連(介護報酬業務システム)導入 → 76.0%
- 人材充足度 → 63.1%
- 採用希望年代 → 中堅
- 技専での育成希望 → 41.3%
- ・実務者研修(委託訓練)が中止になること  
→ 困る 29.8%、わからない 43%

<受講者(求職者)>

- ・就職したい業種  
→ 「医療・福祉」19.2% 最も高い

<<ポイント>> 現行のまま継続。ただし、受講促進に向け広報強化

- ・訓練体制や内容は、基本、現行のまま継続
- ・ただし、DX関連技術への関心も高いほか、介護記録の作成等にパソコンが利用されるため、パソコン・OAの基礎的な内容を追加
- ・人手不足が深刻(雇用が悪化した場合の受け皿としても不可欠)な分野のため、まずは、人材の確保に向け、ハローワークとの連携を強化して受講促進に努める。

リーマン後(H20~24)  
新川センター @55名/年  
砺波センター @38名/年

<<見直し内容>>

介護サービス科(2か月)

- 【訓練】在宅・施設介護に必要な技能や基本的な知識の習得(初任者研修)  
・パソコン・OA(介護報酬業務システムを含む)の基礎的な内容の習得
- 【広報】ハローワークとの連携強化によるPRの工夫(委託訓練も含め)

<<民間との役割分担>>

- ・技専の現状を踏まえると初任者、在職者の育成とも ⇒ 実質、民間

■参考

- ・実務者研修(6か月) ⇒ 委託訓練 引き続き実施

介護サービス科(砺波センター)

介護サービス科(2か月×2回)

【主な対象者】女性(20名×2)

【訓練】在宅・施設介護に必要な技能や基本的な知識の習得(初任者研修)

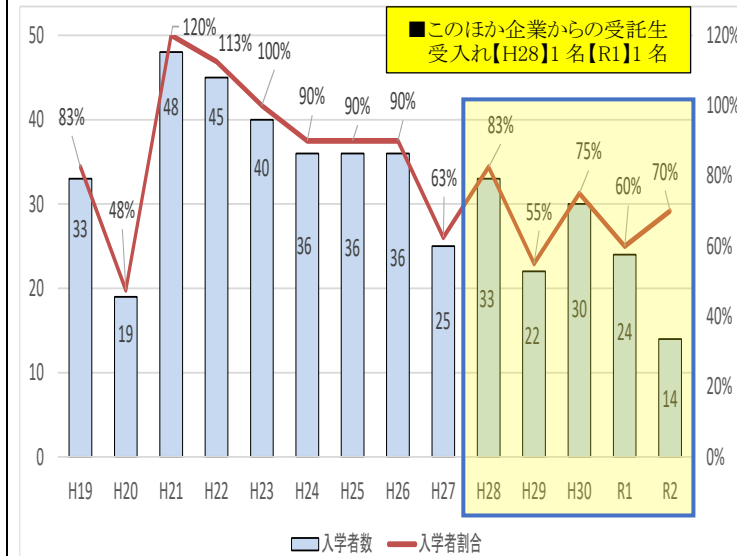
【体制】外部講師対応(指導員未配置)



▲入校率は約7割 ※68%(直近5年)

- ・横ばいで推移
- ・入校者:女性が約8割

○企業からは在職者訓練として活用されている



○就職率は8割超 ※84%(直近5年)

同上

同上